

ORCHESTRA ASIA

- 公演名 「日中韓オーケストラ アジア コンサート」
- 日時 2005年6月24日(金)開場19:00/開演19:30
- 会場 EXPOホール
- 主催 財団法人2005年日本国際博覧会協会

日本、中国、韓国の伝統楽器群による史上初の管弦楽団「オーケストラアジア」が、愛知万博のために特別編成し、国々の伝統に根ざした特色ある音楽をEXPOホールで演奏します。

日本の楽器は、もともとは昔の中国や韓国から伝わってきたものですが、長い間に改良されながら日本独特の伝統と個性をもった和楽器になりました。「オーケストラ アジア」の楽器たちは親族ではあっても、その楽器で演奏される音楽の特色は異なっています。似ているようでまったく違う、けれどもなぜかつかしい。このことは音楽に限らず相互に理解し、互いに自分たちのことを知るためにも大事なところ です。



今年は「日韓友情年2005」であり、2008年には「北京オリンピック」、2010年には「上海万博」が開かれます。将来に向けた東アジアの友好親善を謳う“日本、中国、韓国の伝統楽器が奏でる渾然一体の響き”にご注目ください。

《プログラム》

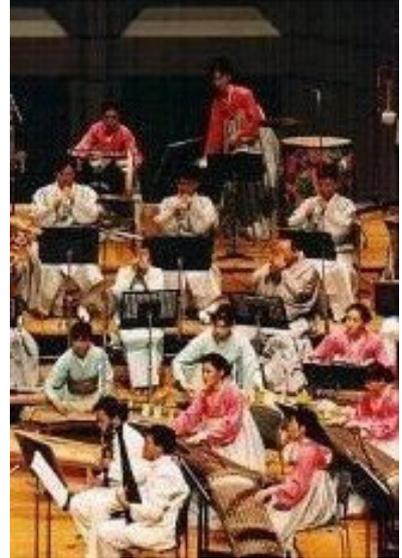
1. 東アジアふるさとの歌
草原情歌(中国)～故郷の春(韓国)～故郷(日本)
2. 中国音楽のしらべ
花好月圓、紫竹調、競馬
3. 韓国音楽のしらべ
シナウイ、海州(ヘジュ)アリラン、舟歌(ペンノレ)
4. 「子供のための組曲」より、第5章 長沢勝俊:作曲
5. 宮崎駿アニメ・メドレー 秋岸寛久:編曲
6. さくら さくら 川崎絵都夫:編曲
7. 茉莉花(ジャスミン) 劉文金:編曲
8. アリラン・メドレー 朴範薫:編曲

* 曲目は都合により変更になることがありますのでご了承ください。

《プロフィール》

「オーケストラ アジア」について

1993年9月、以前から相互に交流を積み重ねてきた日本・中国・韓国の音楽家やプロデューサーが韓国ソウルに集まり、西洋のオーケストラと鮮やかに対照する3か国の伝統楽器による史上初の管弦楽団「オーケストラ アジア」が誕生する。翌94年、韓国ソウル「芸術の殿堂コンサートホール」での旗揚げ公演を皮切りに、東アジアの各都市で毎年自主公演を開催。日本国内では札幌、仙台、東京、富山、岐阜、大阪、神戸、岡山、徳島、福岡での公演をはじめ、日本政府主催の「戦後50年を記念する集い」(国立劇場)、文化庁芸術祭主催公演「アジア・アート・フェスティバル」(国立劇場)、「長野オリンピック記念公演」(長野県民文化会館)、NHK・TV「キックオフ2002・アジア新時代」の出演など、国や民族の境界を超えて活発な活動を展開している。



稲田 康 (指揮)

京都芸術大学卒。ウィーン国立アカデミーに留学。帰国後、オーケストラの他、オペレッタ、現代邦楽などの指揮や、市川猿之助スーパー歌舞伎の音楽など、様々なジャンルで活躍。1995年、東京フィルハーモニーを指揮したNHK制作の番組がプラハ国際テレビ祭・チェコクリスタル現代音楽優秀賞を受賞。1998年から「オーケストラ アジア」の指揮者に就任。

<演奏者>

韓国から◎安修蓮(奚琴)、文良淑(伽耶琴)、呉世辰(ピリ)、朴天志(打楽器)、沈賢卿(歌)

中国から◎宋雲(二胡)、張勇(二胡)、随紅(古箏)、魏瑋(琵琶)、成燕娟(揚琴)

日本から◎花房はるえ(二十絃箏)、宮西希(二十絃箏)、大泉一美(十七絃箏)、工藤哲子(三味線)、石田さえ(琵琶)、紫竹芳之(笛)、大友竹邦(尺八)、石田雄士(尺八)、西川啓光(打楽器)、佐藤秀嗣(打楽器)